# 【保健体育・中学校1年・「健康な生活と疾病の予防」①】

### 育成を目指す資質・能力

目 標: 生涯にわたり健康な生活を送るためには、病気を発生させたり、悪化させたりする可能性のある行動を ウトコントロール 運動 食事 体養及び睡眠の選和のとれた生活が大切であることを理解する

自らコントロールし、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活が大切であることを理解する。 (知識) ・健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を

続ける必要があることを理解している。

思・判・表 )・健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともにそれらを 表現している。

(学びに向かうカ、人間性等)・健康な生活と疾病の予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。

## ICT活用のポイント

生徒同士の現状の様子や考えていることを参考にして、自己の姿と課題を確認し、よりよい改善に向けて考えることができる授業

【つかむ】場面① クラスメイトの食事についての 現状をアンケートで知る

#### 【追究する】場面②

課題のある食生活をスライドで例示し 課題を見つけ、改善点を考える

【まとめる】 グループで話し合った食生活の 改善内容を発表し合う

### 事例の概要

〇生涯にわたって、運動やよりよい生活習慣を日常生活に取り入れられるよう、ホワイトボードを使用し、運動計画や生活習慣を作成するなど、自分の生活に結び付けて考え健康を維持するために意識していることを生徒同士で共有して改善意識を高める。

### 【事例におけるICT活用の場面①】

○自分やクラスメイトの現状を知るために、アンケートアプリで食事に関するアンケート調査を行い、授業に反映する。

## 【事例におけるICT活用の場面②】

〇プレゼンテーションソフトに示された食生活の例について、課題を見つけ、改善に向けて 必要な情報をインターネットで調べたり、グループで話し合ったりして、ホワイトボードに自分 の考えを示す。

# 【保健体育・中学校1年・「健康な生活と疾病の予防」②】

### 【事例におけるICT活用の場面①】



アンケートアプリにより、自身やクラスメイトの現状である食事の課題を視覚的に捉えることで、多様な考えを取り入れながら、課題設定に向けて、主体的に考えをもつことができる。

### 【事例におけるICT活用の場面②】



ホワイトボードを使って、話し合って見つけた改善点や各自 で調べた情報をグループ内でまとめていくことで、グループ内 で改善に向けた話合いを進めることができる。



グループ内で話し合った内容を全体に向けて発表することで、今後の食生活の見直しや改善していく決意を確認し合うことができる。

#### 〇学習過程と事例におけるICT活用の場面との関係

- ・アンケートアプリで食事についてのアンケートをとることで、自分やクラスメイトの現状 、 を分かりやすく捉えることができ、食生活について、自分事として考えるきっかけを与え た。
- ・健康のための食生活について理解が深まるよう課題のある食生活をプレゼンテーションソフトで視覚的に示し、主体的に課題への意識をもたせ、改善への意欲を高めた。
- ・ホワイトボードを使用して、自分の考えを表現したり、クラスメイトの多様な考えを参考 にしたりすることで、自分の考えを深めながら学習を進めていくことができた。

#### OICTを効果的に活用するためのポイント(ICT活用の工夫や留意事項等)

・個人が考えた内容がICT端末内のみで完結しないように、グループや全体の場面で自分の言葉で説明するなど、お互いの考えを共有する時間設定が必要である。

#### 〇生徒や教師にとってのICT活用のメリット

- ・単元を通した学習記録として、これまでの思考した経緯等も蓄積する事ができ、自分自 身の成長を確認することができる。
- ・導入場面のアンケート結果やプレゼンテーションソフトによるスライド、ホワイトボードによる意見交換等、視覚的に提示や交流をすることで、興味をもって学習に取り組むことができる。
- ・生徒がこれまでの学習で思考・判断してきたことをすべてデータ保存することができているため、支援や指導に生かすとともに、授業改善や評価に効果的に活用することができる。

#### 〇活用したソフトや機能

・アンケートアプリ ・ホワイトボード ・プレゼンテーションソフト

#### 〇児童生徒の反応 児童生徒と教師のやりとり 等

・クラスメイトの考えや生活習慣を参考にすることで、自分の生活習慣を見つめ直し、 自分自身の考えを深める学習となっており、教師とのやりとりによって課題となる現状 を自ら認識することができ、必要感を感じながら生活習慣の改善を決意していく展開 となっていた。